

三矢の訓

令和3年6月25日 発行



当たり前の事がきちんとできるすばらしさ ~傘のしまい方~

日々の暮らしの中で、「当たり前」ということも、実はできていないことが多いものです。いそがしさや、めんどくささなどに負けて、いい加減にしてしまうと、大切なことを見失ってしまうことがあります。

「傘を巻き上げて、傘立てに立てる」

当たり前のこと、小さなことかもしれませんが、それをきちんとできる伊島小学校の子どもを誇りに思います。

傘を巻き上げるためには、自分の手を濡らさなければなりません。いそがしい時や寒い朝には、もどかしいことでしょう、つらいことでしょう。いちいち巻き上げるのはめんどくさいと思うかもしれません。

言われなくても、きちんと傘を巻いて傘立てに立てています。



しかし、きちんと傘を巻き上げて立てておくと、後から来る人が困りません。

小さな当たり前の中に、すべきことをするという「自立心」や「責任感」、「思いやり」などの大切な心が隠されているのでしょうか。そんな当たり前の一つ一つを大切にすることが、本校の目指す「つよく」「たたく」「あたたかく」につながっていくのだと思いました。日々の子どもたちの姿から、学

んだり気付かせられたりすることが多いです。

ご家庭での指導と、これまでの保育園や学校での指導が相まって、このような落ち着いたよい子が育ってきているのだと思います。これからも当たり前のこと、小さなこともしっかり見つめ、家庭と学校が力を合わせ、すばらしい伊島小学校の子どもを育てていきましょう。

6月になり、雨の降る日も増えてきました。子どもたちは傘をさして、靴も濡れながら登校してきています。タオルや靴下の替えなどを持たせてくださってかまいません。家庭の愛情を感じたり、生活の工夫として受け止めたりしながら、自立に向かって進んでいくことと思います。



個人情報保護のため、写真の解像度は下げています。



登校してきた子が、みんな傘を巻いています。小さい学年の子を手伝う高学年の子もいます。

6 / 10 水泳指導が始まりました。



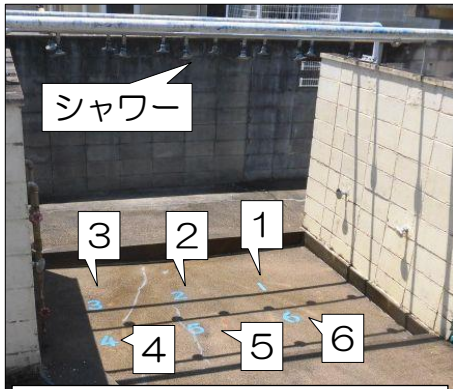
しっかり間隔が取れるように、プールサイドに番号札を付けました。

コロナウイルス感染症のために、昨年度は実施できなかった水泳指導ですが、一年間のうちに私たちにも、科学的な分析や対処方法などが蓄積されてきました。教育委員会の保健体育課からも、文科省や保健所と連絡を取り、従来のプールの安全基準（塩素濃度）が満たされていればウイルス感染の心配はないことを確認した結果、水泳指導を実施することができました。

今年水泳ができず、2年間もプールを使わないことになれば、現6年生は高学年での水泳経験なしに中学校へ進学し、4年生は高学年になって初めて大プールに入り、2年生に至っては伊島小のプールを知らないまま3年生になってしまうところでした。



プールの使用人数も半分にし、間隔を取れるようにしました。



シャワーも密を避けて、一度に6人までの使用にしています。用務員さんが、ペンキで足元に番号も書いてくれました。学校を上げて、コロナ対策を講じています。

先生方も、5月から、子どもの動きや密になりそうな場面、指導の在り方を協議したり、実際に全員でプールに行ってシミュレーションや打ち合わせをしたりして、安全に水泳指導が行えるように準備をしました。

感心するのは子どもたちの姿です。感染防止のための約束をしっかりと守って、互いの間隔もしっかりとって

水泳の授業にのぞんでいます。実施できて本当に良かったです。

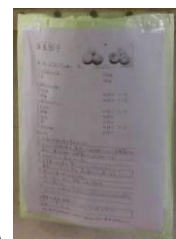


給食の先生発 おすすめレシピ

料理の写真
今回は
白玉団子



袋の中に、レシピが入っています。持ち帰り自由です。



北館1F給食室横（階段脇）の廊下に、栄養教諭が、給食の献立の中から、簡単に作れるものを選んでレシピを置いています。

「持って帰っておうちの人に作ってもらおう」「自分で作ってみたい」と、子どもたちからも好評で、用意していた枚数では足りず、増刷することもあります。どうぞ遠慮なくご利用ください。